



平成 2 2 年度

「東京 MOU に隣接する PSC 地域組織への専門家派遣」

インド洋 MOU への専門家派遣事業報告書



財団法人 東京エムオウユウ事務局

## 目次

|      |                   |       |    |
|------|-------------------|-------|----|
| I    | 事業の目的             | ----- | 3  |
| II   | 平成 22 年度の活動概要     | ----- | 4  |
| III  | 過去に実施した研修の現在までの成果 | ----- | 6  |
| IV   | 今後の予定と課題          | ----- | 8  |
| 添付資料 |                   |       |    |
| 1    | インドでの研修報告書        | ----- | 9  |
| 2    | ケニアでの研修報告書        | ----- | 46 |





## I 事業の目的

財団法人東京エムオウユウ事務局は、「アジア太平洋地域の寄港国検査（Port State Control : PSC）に関する覚書」が1993年12月に締結されたのを契機に、設立されました。この覚書は東京で締結されたため、通称、「東京MOU」と言います。現在18カ国・地域が加盟する東京MOUの目的は、加盟した海事当局が協力してサブスタンダード（基準不適合）船を撲滅し、海上安全や海洋環境の保全を確保することです。

この目的を達成するには、PSCを執行する各国職員の養成や能力向上が不可欠であり、本財団は、1994年の設立以来、域内各国で研修やセミナーを実施してきました。この効果もあり、東京MOU域内の検査件数は、先行した欧州のPSC地域組織（通称パリMOU、1982年設立）に肩を並べるまでになりました。また、最近は、国際海事機関（IMO）の要請を受け、発展途上にある世界各地のPSC地域組織からの研修生を基礎研修コースに受け入れてきました。更に来年度から開始される総合研修コースにもIMOの要請により、発展途上のPSC各地域組織から研修生を受け入れることになっています。

東京MOU域内の検査件数は増加する一方、検査しきれない船も依然として多く存在します。未検査の船を減らす方策のひとつとして、隣接する地域組織（インド洋や南米などのMOU）と連携を図り、東京MOU地域と隣接地域を往来する船舶に対する検査を確実に実施することが適切と考えました。それを実施するため、日本財団の支援を得て、検査技術・件数も十分とは言えない隣接するPSC地域組織に東京MOU域内の専門家を派遣し、能力アップを図る事業を平成21年度から始めました。

上記の主旨を踏まえ、3カ年計画でインド洋MOUの数カ国へ専門家を派遣、現地で研修を実施する事業を始め2年目を迎えました。昨年度研修を実施したイランでは、早速検査件数の増加が報告されています。本報告書は、今年度の活動をまとめたものです。専門家を派遣していただいた豪州、チリ、韓国及び日本の海事当局に感謝いたします。

## II 平成22年度の活動概要

### 1. 事前準備

- 1) 平成22年6月14～17日に開催された東京MOU・PSC委員会の際、インドとケニアへの専門家派遣について各国に打診したところ、豪州、日本、韓国、チリ、シンガポールなどが前向きな姿勢を示しました。その後、諸般の事情を考慮し、インドへは豪州から2名、チリと日本から各1名、合計4名の専門家を、ケニアへは豪州から2名、日本と韓国から各1名、合計4名の専門家をそれぞれ派遣することにしました。また、現地で研修開催国及び専門家との調整を行うため、当財団職員1名を両国に派遣することにしました。

### 2. インド・コチンでの研修

- 1) 研修は平成22年10月4日～15日に開催され、インド、ケニア、南アフリカ、レユニオン島（フランス海外県）から13名の研修生が参加しました。
- 2) 研修準備に当たっては、前年度のイランでの研修結果を考慮し、研修生の数を限定する、実船訓練、ケーススタディを増やす等を考慮しました。
- 3) 研修は無事終了し、研修生からは研修の継続を期待する多くの声がありました。インド洋MOUには東京MOUのような研修システムが無く、外部専門家から講義や実船訓練を受け、討議する機会が非常に貴重なものであったようです。
- 4) 派遣された専門家からは実船訓練の後、インド等のPSCに関する問題点と改善策の指摘がありました。事務局はそれを取りまとめ、研修報告書の一部としてインド洋エムオウユウ事務局に提出し、インドを含めた研修生を参加させた各国に配布するよう依頼しました。インド研修の詳細については、添付1をご覧ください。

### 3. ケニア・モンバサでの研修

- 1) 研修は平成23年1月31日～2月11日に開催されました。国際海事機関（IMO）が計画段階からこの研修に関心を示し、インド洋MOU以外からの参加者6名とインド洋MOU域内からの参加者2名、合計8名の旅費を負担してくれることになりました。参加者は計16名で、その内訳はケニア5名、南アフリカ2名、タンザニア2名、スーダン、オマーン、ガイアナ、トルコ、アルゼンチン、ナイジェリア、チュニジアから各1名が参加しました。
- 2) 研修準備に当たっては、イラン及びインドでの研修結果を考慮し、研修生にPSCマニュアルを配布する、実船訓練には外国籍船舶のみで行う等を考慮しました。
- 3) 研修は無事終了し、インド洋MOU以外の参加者からも、東京MOUの専門家による当該地域での研修の開催を望む声がありました。
- 4) ケニア研修の詳細については、添付2をご覧ください。



### III 過去に実施した研修の現在までの成果

#### 1. イランでの研修(2009年11月)の成果

##### 1) ホームページの充実化

イラン研修の実船訓練の際、講師陣はイラン PSC 職員が証書のチェック等に必要以上に時間を取られていると指摘し、PSC でチェックする証書類を PSC を受ける側に事前に周知することを提案しました。研修後、イラン海事局 (Ports and Marine Organization) はウェブサイトにも PSC 専用のサイトを設け、PSC の手順やチェックする証書リストを含む PSC のガイドラインを公表しました (<http://www.pmo.ir/home-en.html>)。

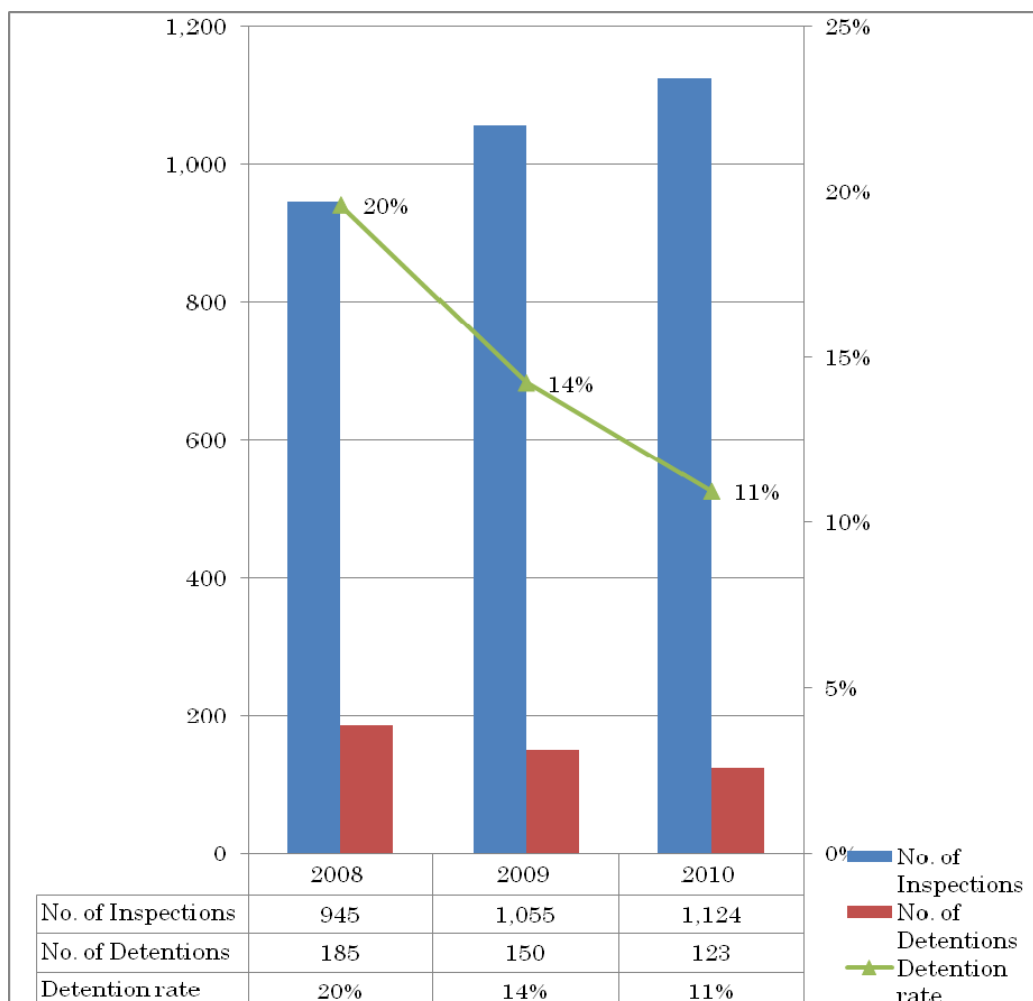
##### 2) 検査件数

2010年上半期の検査件数は前年同期に比べ10%以上伸びを示しました。同年下半期は2009年の同時期の水準に戻りましたが、年間単位で見ると、2009年の総検査件数1055件に比べ2010年は1124件で、前年に比べて約7%の伸びを示しています。

##### 3) 航行停止処分件数

講師陣は、イランの高い航行停止処分率(2008年の統計で20%)の原因として不必要な航行停止処分が行われていることを指摘し、その是正を提案しました(詳しくは平成21年度報告書の21、22ページに記載されています)。これを受け、イラン海事局は是正措置を持ったようであり、2009年の航行停止処分率は14%強、2010年は11%弱と減少し続けています。

表1 イラン年別の検査件数、航行停止処分件数及び航行停止率



(出典：インド洋 MOU データベースから数値を抽出、当財団が作成)

## 2. その他

- 1) イラン・インドの研修では、個人的知識や経験に依存した PSC が行われている傾向にあることが判明し、インド洋 MOU 域内での統一した PSC マニュアルの整備や活用を提案しました。ケニアの研修では、インド洋 MOU の標準マニュアルが研修生に配布され、域内での統一的な PSC の実施に一步前進しました。
- 2) 今後も、研修の成果について、インド洋 MOU のデータベース等を活用しフォローしていきたいと思えます。また必要に応じ、インド洋 MOU 事務局に対し助言等もしたいと考えています。



#### IV 今後の予定と課題

当事業も2年目を迎え、今年度は、インド及びケニアに専門家を派遣し研修を実施しました。インド研修には4カ国が参加しました。ケニア研修はIMOの目に留まるどころとなり、一部参加者にIMOの資金援助があり、計10カ国が参加しました。3年目の専門家派遣については、南アフリカ共和国のダーバンを予定しています。

インド洋MOU地域と東京MOU地域とを往来する船舶は多く、インド洋MOUで適切なPSCが実施され、安全な船が増えれば、東京MOUの負担は軽くなります。しかし、昨年度のイラン、今年度のインド及びケニアでの研修状況を踏まえると、引き続き更にPSC職員の能力を向上させる必要があるようです。インド洋MOUのPSC充実強化に協力できることがあれば、可能な限り協力したいと考えています。

今年度、ケニア研修についてはIMOが旅費を負担し、他地域MOUからも参加しました。他地域MOUではPSCの歴史は浅く、十分な人材が育っていないようです。また本財団が今般実施しているような研修の機会も少ないようです。一方IMOは、IMOが作り出した条約等を遵守させるには、世界的にPSCの充実強化が不可欠と考えています。このため、IMOはケニア研修へ他地域MOUが参加することに資金支援しました。

今後、PSC職員能力向上のためにインド洋MOUを含む他地域MOUに対し、東京MOUとして可能な協力について、IMOを含めた関係機関と検討したいと考えています。

## 添付 1

### インドでの研修報告書

#### 現地日程表

| 日                               | 行動   | 場所  |
|---------------------------------|--|---|
| 2010年10月2日(土)                   | 移動(成田空港～シンガポール～コーチン)   |   |
| 2010年10月3日(日)                   | 打ち合わせ  | ボルガッティパレスホテル  |
| 2010年10月4日(月)                   | <ul style="list-style-type: none"><li>● 開講式</li><li>● PSCに関する座学研修</li></ul>  | ボルガッティパレスホテル<br>会議室                                   |
| 2010年10月5日(火)～<br>2010年10月9日(土) | PSCに関する座学研修  | ボルガッティパレスホテル<br>会議室                                   |
| 2010年10月10日(日)                  | 休日   |   |
| 2010年10月11日(月)                  | PSC実船訓練1(計4隻)及び実習に関する討論等   | コーチン港<br>コーチン海運局<br>(Mercantile Marine<br>Department) |
| 2010年10月12日(火)                  | <ul style="list-style-type: none"><li>● PSC実船訓練1の内容の発表及び講師の講評</li><li>● ケーススタディ等</li></ul>   | ボルガッティパレスホテル<br>会議室                                   |
| 2010年10月13日(水)                  | 休日   |   |
| 2010年10月14日(木)                  | <ul style="list-style-type: none"><li>● PSC実船訓練2(計4隻)及び実習に関する討論等</li></ul>   | コーチン港<br>コーチン海運局<br>(Mercantile Marine<br>Department) |
| 2010年10月15日(金)                  | <ul style="list-style-type: none"><li>● PSC実船訓練2の内容の発表及び講師の講評</li><li>● ケーススタディ等</li><li>● 閉講式</li><li>● 移動(コーチン～シンガポール)</li></ul> | ボルガッティパレスホテル<br>会議室                                   |
| 2010年10月16日(土)                  | 移動(シンガポール～成田空港)  |   |

## 1. 現地派遣者（敬称略）

### 講師

- 1) Michael Hickman, Marine Surveyor, Maritime Operations – North, Maritime Operations Division, Australian Maritime Safety Authority (AMSA)
- 2) Tim Jordan, Marine Surveyor, Maritime Operations – West, Maritime Operations Division, AMSA
- 3) Roberto Gaete, Chief Engineer &PSC Officer in Central South District, Directorate General of the Maritime Territory and Merchant Marine, Chile
- 4) 伏見 慎一 国土交通省 東北運輸局 海上安全環境部 次席外国船舶監督官  
コーディネーター
- 1) 秋元 文子 財団法人 東京エムオウユウ事務局（事務局） 業務課長

## 2. 日程

### 2.1 開講式

- a) 2010年10月2日（土）午前9時半より、コーチンのボルガッティパレスホテル講堂にて開講式が開催された。最初にコーチン海運局を代表して、海運局長の M.P. John 氏から祝辞をいただいた。次にムンバイの海事局主任検査官の Amitaya Banerjee 氏が、海事局を代表して挨拶を行った。引き続き、東京エムオウユウ事務局長挨拶を秋元文子が代読し、次に、Tim Jordan 氏（AMSA）が講師陣を代表し挨拶を行った。
- b) その後、講師及び研修参加者が自己紹介を行った。
- c) 引き続きコーチン海事局の検査官、Ajithkumar Sukumaran 氏がインドの PSC に関するプレゼンテーションを行った。
- d) 次に、M.P. John 氏と Tim Jordan 氏（AMSA）がコースの概要と研修受講の際の注意（質問は講義中随時受け付ける等）をそれぞれ説明した。

### 2.2 研修参加者

研修参加者は計 13 名で、うち 2 名がケニア、1 名が南アフリカ共和国、1 名がフランスの海外県であるレユニオン島、残り 9 名はインド各地からの参加であった。南アフリカ共和国からはもう 1 名、イランから 1 名が参加する予定であったが、それぞれの国の内部事情により参加を取りやめた。全参加者リストは、別紙 1 の通りである。

### 2.3 座学研修

#### ① 時間割

開講式の後、事務局とコーチン海運局で事前に合意した時間割に基づき、講義を開始した。

なお、時間割は現地での状況を考慮し内容を一部修正し、最終的には別紙 2 とした。

② 各種アレンジ

- a) 教室には、海上人命安全条約(SOLAS)、海洋汚染防止条約 (MARPOL)、国際安全管理コード (ISM Code) 等が置かれ、研修生及び講師が随時参照できるようにした。
- b) 研修参加者と講師には、事前に事務局からコーチン海運局へ送付した全教材が印刷されて配布された。教材は最終日に DVD に収納して配られた。また筆記用具と今回のトレーニングの名称等が印刷されたノートが全員に配布された。

③ 講義内容

1 日目 (10 月 4 日 月曜日)

2.1 に記載された開講関連の行事が終わった後、昼食をはさみ、秋元文子 (事務局) が、東京エムオウユウの活動に関するプレゼンテーションを行った。

その後、Tim Jordan 氏 (AMSA) が、SOLAS、MARPOL、Load Line、STCW の PSC 関連条約の概要に関する講義を行った。休憩をはさみ、Michael Hickman 氏 (AMSA) が、PSC 手順書 (IMO 決議 A.787 (19)) の講義を行った。A.787(19)の講義では、ISM コードに関する欠陥等、具体的な事例への対処方法に関する質問が多く、講師はその対応に追われ、準備した講義内容を終えることができなかつたため、続きは翌朝に繰り越すこととした。

2 日目 (10 月 5 日 火曜日)

Michel Hickman 氏 (AMSA) が、A.787(19)の講義の続きを行った。休憩をはさみ、Hickman 氏が SOLAS 第 I 章 (一般規定) の講義を行った。質問や参加者同士の議論で講義が再び予定通り進まず、この日の午前中に予定していた同第 II-1 章と II-2 章は翌日午前中に持ち越すこととなった。

午後、当初の時間割通り、伏見慎一氏 (国土交通省) が、以下の講義を行った。

- SOLAS 第 III 章 救命設備
- 同第 IV 章 無線通信
- 同第 V 章 航行の安全

3 日目 (10 月 6 日 水曜日)

午前 Michel Hickman 氏 (AMSA) が当初 2 日目に予定していた以下の講義を行った。

- SOLAS 第 II-1 章 構造（構造、区画及び復元性並びに機関及び電気設備）

講義ののち、ボイラー関連機器で PSC でチェックすべき点について、関連写真を見せながら、説明を行った。

その後、同章関連の演習問題（ある PSC の状況を設定し、指摘した各欠陥に対して適切な措置コード(codes for action taken)を振る等）を行った。

午前中の休憩の後、同章の続きを行った。次に同じく Hickman 氏による以下の講義が行なわれた。

- 同章第 II-2 章構造（防火並びに火災探知及び消火）

午後、Tim Jordan 氏（AMSA）が、以下の講義を行った。

- 同第 IX 章及び ISM コード 船舶の安全運航の管理及び国際管理コード

その後、ISM コード関連の演習問題を行った。指摘した欠陥に対して、措置コードと根拠となる同コードの条文番号を答えさせる形式を取った。参加者を 4 グループに分け、討論・発表させる形式をとった。

#### 4 日目（10 月 7 日 木曜日）

午前、伏見慎一氏（国土交通省）が、以下の講義を行った。

- 同 X1-2 章及び ISPS コード 海上の安全性を高めるための特別措置第 2 規則及び国際保安コード

その後、同コードに関するケーススタディを行った。

午後、Tim Jordan 氏（AMSA）が、以下の講義を行った。

- 満載喫水線に関する国際条約（Load Line）
- 1978 年の船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約（STCW）

Jordan 氏は双方の講義に於いて、関連事項のケーススタディを随所にはさみながら進行させた。

#### 5 日目（10 月 8 日 金曜日）

午前、当初の予定になかったインド側のプレゼンテーションが行われた。

- Related to MARPOL (The Great Eastern Institute of Maritime Studies 所長 Ajoy

Chatterjee 氏)

- Port State Control (School of Maritime Engineering, Cochin University 教授 K.A. Simon 氏)

午後、Roberto Gaete 氏 (チリ) が、以下の講義を行った。

- MARPOL 付属書 I 油による汚染の防止のための規則
- 同付属書 II ばら積みの有害液体物質による汚染の防止のための規則

#### 6 日目 (10 月 9 日 土曜日)

午前、秋元文子 (事務局) が、以下の講義を行った。

- 船主・旗国等からのアピール (不服申し立て) への対応及び PSC 職員の責任 (Appeal procedures and Code of Good Practice)

その後、Roberto Gaete 氏 (チリ) が、以下の講義を行った。

- MARPOL 付属書 III 容器への収納の状態で海上において運送される有害物質
- 同付属書 IV 船舶からの汚水による汚染の防止のための規則
- 同付属書 V 船舶からの廃物による汚染の防止のための規則
- 同付属書 VI 船舶からの大気汚染による汚染の防止のための規則

午後、Roberto Gaete 氏 (チリ) が、以下の講義を行った。

- 2001 年の船舶の有害な防汚方法の規制に関する国際条約 (AFS 条約)

午後、Michel Hickman 氏 (AMSA) が欠陥個所の写真を提示したケーススタディを随所にはさみながら、以下の講義を行った。

- 操作要件 (Operational Requirements)

#### ④ 座学研修中の状況と課題

##### a) 研修参加者

- i. 参加者は、インド以外からの参加者を除いてほぼ全員が船長、機関長、通信士の経験者であった。インドでは PSC 官の資格として、最低 2 年間の船長または機関長の経験を課している。
- ii 参加者 (特にインド本国からの参加者) は講義の途中で多くの質問を投げかけた。質問の多くが、具体的な事例へ対処方法 (措置コードの振り方を含む) を問う質問であり、質問者の港に限定される事象や、旗国検査官としての経験のみに依存したものも多く見受けられた。またある参加者の質問に対し講師の対応を待つことなく他の参加者が発言し始め、参加者同士の議論となる

ことがしばしばであった。その議論は PSC の視点からかけ離れたものもあり、講義を円滑に進行できない等の弊害が出た。そのため、講師陣は、質疑は PSC に関連したものであるのみとし、まとめておいて、休憩時間や食事時にするよう指示をした。しかし、講義途中に質問する者が後を絶たず、講師陣は対応に苦慮した。

- iii インドの研修生の主張は、PSC のトレーニングの機会は稀有であるため、可能な限り能動的に参加したいとのことであった。質問は進行を妨げるものではなく、対講師及び研修生同士の対話を活発にするものであり、弊害にはならないとのことだった。
- iv 参加者の大半が船長もしくは機関長の経験者だけあり、全体的な傾向として関連条約に関する知識は十分に持ち合わせているように見受けられた。そのためか、条約の説明中は静かで、関心が薄いことを示していた。一方、実際の欠陥部分の写真を用い、判断基準や是正方法の説明となると質問・議論が活発になることから、より実際的な事柄に興味を示すことがうかがわれた。なお、条約に対する知識を過信している傾向も一部の参加者に見受けられるとの講師陣の指摘もあった。
- v 主にインドの研修生の発言から、判断が個々の PSC 官に委ねられており、統一した PSC の手順が未整備との印象を受けた。

b) 講師

- i 研修開始後、大半の研修生がより実際的な内容の講義(規則の説明でなく、実際 PSC で留意すべき箇所の説明等)を希望していることが判明したため、操作用件等一部の講義に於いて、講師が写真等の手持ち資料などを用い教材を現場で作り直した。事前に参加者の経験やレベル、希望などを把握して教材を用意するのが理想だが、実際それは不可能に近い。となると、講師には現場で臨機応変に対処できる能力・知識・柔軟性が求められる。今回の講師陣(特に AMSA の講師)はこのような状況下、教材の作り直しに快く応じ、空き時間教材を利用して教材を作成し、研修生の希望にかなった講義をした。
- ii 講義中の質問や研修生同士の議論に講師陣は苦慮していた。今後、講師とコーディネーターには質疑応答を臨機応変に効率的にさばく能力も必要である。次々に浴びせられる質問・意見に、講師陣は質問者の経験・立

場を尊重しつつ、客観的な立場で答える姿勢を貫いていた。質問には講師同士が協力し合い、切り抜けた。

⑤ 教材

- a) 準備した教材を現場で適宜修正・加筆・作り直しをした。
- b) 新たに作った教材もあった。講師陣は欠陥事例の写真やビデオ、複数の演習問題やケーススタディを準備していたので、臨機応変に教材とすることができた。
- c) 視覚に訴えるような教材がより効果的である。

2.4 実地研修及びケーススタディ

実船訓練実施要領

10月9日（土）の講義終了後、10月11日（月）に実施予定の第1回実船訓練の実施要領について、コーチン海運局と講師が下記の通り説明した。また、実船訓練に関する各グループのプレゼンテーション用資料の作成要領を事務局が説明した。

- a) 実習船計4隻を確保する。参加者を4グループに分け、外国からの参加者はそれぞれのグループに1名ずつ配置する。各グループにはリーダー（船長又は機関長経験者）を置く。PSC対象船が確保できない場合は、インド船籍船で模擬PSCを行う。
- b) インド人研修生が通常のPSCを行う。各グループに講師1名が同行する。
- c) 講師やインド以外の参加者は、インド国内でPSCを行う権限がないため、インド人研修生のPSCを観察するのみとし、気付いた点は訓練終了後の討論会で指摘する。
- d) PSC後はコーチン海運局の事務所会議室にて、グループ毎にレビューを行い、実習中の疑問等を解決する。

7日目 第1回実船訓練（10月11日 月曜日）

① 実船訓練

4グループが、それぞれの割り当てられた船で訓練を行った。実習船の詳細は別紙3の通りである。うち1隻はインド国籍船であった。どのグループも調べるべき証書類のチェックリストを持ち合わせておらず、証書を調べるのに時間を要した。

② 実習のレビュー

2船が航行停止処分となったため（1隻は検査の一時中断措置(suspension)となった）、当該グループは検査と事後処理に時間がかかった。また、4隻のうち2隻が突堤(jetty)に停泊し



ていたため、下船後の交通手段（ボートと自動車）の手配に時間を要し、午後に予定していたレビューは早いグループでも 16 時頃、遅いグループでは 17 時頃からの開始となった。一部の研修生にレビューの時間が短く、疑問点等が解消できないとの不満が残った。

## 8 日目 第 1 回実船訓練に対する考察（10 月 12 日 火曜日）

### ① 研修生による実習内容の発表

9 時から 10 時までの間、研修生は実習グループ毎に実習内容をパワーポイントで作成した。10 時から各グループは 20 分の時間を与えられ、リーダーが発表を行った。訓練で発見した主な欠陥の写真を提示するとともに、そのグループが取った措置も発表した。その後発表された措置が適切なものであったかについて、全参加者が討議した。講師陣は適宜討論に参加し、助言や示唆を与えた。

### ② 講師による講評

講師陣は実習に対するそれぞれの講評をまとめ、Tim Jordan 氏（AMSA）が講師を代表してパワーポイントで発表した。主な事項は下記 2.5 に記す。研修生はメモを取りながら熱心に聞き入っていた。研修後事務局はこれらの講評を項目別に書き換え整理し直し、別紙 4 の通りインド洋エムオウエウ事務局に提出した。

### ③ Detention reports

午後、Tim Jordan 氏（AMSA）が、インドがインド洋 MOU 加盟国の中で、最も航行停止処分が高いことを踏まえ、”Detention reports”作成上の留意点について臨時の講義を行った。また最近 AMSA がある旗国から不服申し立て(Appeal)を受け、最終的に AMSA がその申し立てを却下するに充分は証拠(evidence)を提示したことで、その旗国が申し立てを取りやめた事例をビデオを用い紹介した。この事例を通じ Jordan 氏は、公平な PSC の必要性と、万が一政府代行機関や旗国から不服申し立てを受け、それに対しポートステートが反論の余地がある場合は、写真などの客観的な証拠(evidence)を提示することの重要性を訴えた。

### ④ ケーススタディ

その後、伏見氏（国土交通省）が MARPOL I, SOLAS II-2, III, VI 及び V 章を網羅するケーススタディを行った。休憩の後引き続き伏見氏は、MARPOL I のケーススタディ(国際油汚染防止証書 (IOPP 証書) 関連)を行った。

そのあと、Roberto Gaete 氏（チリ）が同じく MARPOL I(ビルジ管関連)のケーススタディを行った。

引き続き Michael Hickman 氏（AMSA）が SOLAS I 及び II-1 章に関するケーススタディ

を行った。それまでのケーススタディでは、研修生がその事例に係る PSC 官という設定で考えさせるというものであった。一方今回の Hickman 氏が取った手法は、研修生を 3 グループに分け、それぞれを 1)船主・旗国、2)PSC 官及び 3)陪審員（双方の立場を検討し、航行停止処分が適切か否かの判断を下す）の立場から検討・主張を發表させるという目新しいものであった。

#### 9 日目 第 2 回実船訓練（10 月 14 日 木曜日）

前日の 10 月 13 日（水）、第 2 回実船訓練実施にあたって、コーチン海運局長の M.P. John 氏が、第 1 回の実船研修の反省を踏まえ、「異例の長時間を要しており、本日は迅速かつ的確に検査を実施するように」との指示をした。また M.P. John 氏らの助言の下、より効率的・効果的な実習となるよう、講師陣は前回とは異なる編成で研修生を 4 グループに分けた。また突堤(jetty)に停泊している船舶で実習予定の 2 つのグループは、ホテルから専用ボートにて直接本船に行くことにし、時間の短縮を図った。

##### ① 実船訓練

4 グループが、それぞれの船で訓練を行った。実習船の詳細は別紙 3 の通りである。うち 3 隻はインド国籍船であった。前回の反省を踏まえ、どのグループも調べるべき証書類のチェックリスト（AMSA で使用されているものを臨時に転用）を用意して乗船したので、証書のチェックは迅速に進んだ。内 2 船（両方ともインド船籍）が航行停止処分となった。

##### ③ 実習のレビュー

昼食をはさみ、15 時頃からグループ毎に、講師を囲み実船訓練を振り返った。

#### 10 日目第 2 回実船訓練に対する考察、ケーススタディ及び閉講式（10 月 15 日 金曜日）

##### ① 講師の講評

午前、講師陣を代表して Tim Jordan 氏(AMSA)が、一回目の実船訓練で講師陣が指摘した点を考慮に入れた、前回よりも改善が見られた実習であったと講評した。その後各グループが 10-15 分程度で、実習内容の発表を口頭で行った。

##### ② ケーススタディ

次に、Michael Hickman 氏(AMSA)が、欠陥が多く指摘される非常用消火ポンプに関するケーススタディを行った。

##### ③ コード 99 の使い方

引き続き、Michael Hickman 氏(AMSA)が、実船訓練で質問の多かった措置コード 99（その他）の使い方について、実例を交えながらパワーポイントを用いて説明した。

#### ④ 閉講式

その後、閉講式と修了証書授与式が開催された。コーチン海運を代表して M.P. John 氏から閉会の挨拶があった。その後講師を代表して Roberto Gaete 氏（チリ）が挨拶を行った。引き続き、来賓としてコーチン港湾局会長の N. Ramachandranips 氏から祝辞をいただき、続けて Ramachandranips 氏による各研修生への修了証書の手交が行われた。次にコーチン海事局の船舶検査官で今回のトレーニングの準備・運営の中心であった Ajith Kumar Sukumaran 氏が挨拶をし、2 週間に亘る研修の幕が閉じられた。

### 2.5 インド PSC の問題点

#### ① 問題の根幹

事務局を含めた講師チームが、統一した PSC の手順が未整備との印象を共通して持ったのは前述の通りである。一部のインド人研修生に確認すると、参加者の大半は PSC マニュアルを見たことすらないとのことだった。10 月 8 日(金)に臨席していたインド洋 MOU 事務局局長 Ganguli 氏に確認したところ、PSC マニュアルは加盟国の関連中央官庁には配布しており、またホームページの加盟国限定サイトでも公表しているとのことだった。インド海事局では、地方の PSC 官への配布が徹底されていないようだ。主に実船訓練を通じて改善の必要が感じられた以下の点の多くは、PSC の手順が統一化されていないことに依るものであり、各職員に PSC マニュアルが行き渡らず、マニュアルを熟読する機会がないことが一因と思われる。またトレーニングの機会も皆無に等しく、自身の船長や機関長としての経験に頼りがちな傾向も見られた。

臨席していた Ganguli 氏は、事態を憂慮し、同日の担当講師に急きょ時間を調整してもらい、参加者に PSC マニュアルの重要性と、入手・閲覧方法を訴えた。また現在 AMSA が改正チームのリーダーとなって改訂版を編集中であり、2011 年 5 月頃に最新版が発行されることも告げた。

#### ② 講師陣の指摘事項

講師陣は、実船訓練を通じてインドの PSC における問題点を見出し、改善点をまとめ、研修生に向けて発表したのは前述の通りである。また講師陣には別途、講師の立場から今回の研修の評価を書面にて提出してもらった。以下に、それらの講評をまとめたものを示す。

##### a) 証書類のチェック

調べるべき証書類のチェックリストがなく、場当たりの的に調べているので、必要以上に時間を費やしている。また証書類のチェックの結果が、実際船の状態をチェックする際に生かされていない。

##### b) PSC マニュアルの活用

インド洋 MOU のマニュアルにある、検査すべき箇所に関するガイドラインやチェックリストが活用されておらず、効率的な検査ができていない。これらを活用し、チェックリストを作成し、PSC 官に配布するべきである。

c) PSC に関わる姿勢

- i 「木を見て森を見ず」の傾向にある。これを改善するためには、計画的な PSC が必要である。このためには、PSC の手順をチェックリスト化する必要がある。また”What if approach” (起こり得る事態を想定した態勢)が必要である。
- ii 研修生が欠陥として挙げる事項の多くが“表面的”“単発的”なものであり、根拠となる規則要件の確認、その欠陥が及ぼす危険度の検討、関連する事項への展開等の検討が行われていない。
- iii “Code of Good Practice”(PSC 官としての心構え)が徹底されていない。

d) 欠陥措置コード

欠陥措置コードの振り方・書き方に改善の余地がある。

e) PSC 官の訓練

研修制度が整っていない。計画的に訓練する仕組みを構築すべきである。

3. 研修全体に対する参加者の講評

別紙 5 に、各研修生のコメントを記載した。非常に有益だったので、研修の継続を期待する声が多かった。内容に関しては、条約の講義よりも、実船訓練やケーススタディの回数・時間を増やしてほしいとの要望が多かった。また、PSC に係るインド全体の問題点を把握する等の意味において、本省 (Directorate General of Shipping) PSC 職員の参加を要望する声や、インド洋 MOU の立場・視点を代表する者の参加を望む声もあった。今後はケーススタディの充実や、開催国本省関係者の参加要請を検討する必要がある。

4. 研修全体に対する講師の講評

4.1 座学を通しての感想

- ① 参加者のレベルと経験にばらつきがあった。
- ② ほとんどの参加者はすでに関連条約の知識を持ち合わせていたため、用意してきた一部の教材に修正が必要であった。
- ③ 参加者の質問等への対応は苦労したが、非常に積極的に講義に参加していたのは評価に値する。どの講義においても退屈そうな参加者が皆無であった。
- ④ 今後 2006 年海事労働条約 (Maritime Labour Convention = MLC) の講義や、無

線等 GMDSS 機器の操作用件の講義を加えたら効果的であろう。また今後開催地の状況によっては、「液化ガスのばら積み輸送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則」(International Gas Carrier Code = IGB) 及び「危険化学品をばら積み輸送する際の船舶、用役設備等に関する規約」(International Bulk Chemicals Code = IBC Code)等の講義をしたらよい。

#### 4.2 実船訓練を通しての感想

- ① 2 回目の実習では、1 回目の反省を踏まえた進歩が見られた。
- ② 本船側に検査項目・順路などを説明する姿勢が一部の研修生に欠けていた。また複数の者が、船長・機関長に同時に質問することがあり、船長・機関長が対応に苦慮していた。従って今後は”Code of Good Practice”の内容に則り、事前に参加者ルール作りが必要である。
- ③ 一部の研修生に、欠陥を見つけることのみに関心が向いている傾向があった。
- ④ 指導者 1 名につき 4 名の研修生は多すぎる。理想はマンツーマンである。
- ⑤ 状況が許せば、実船訓練の回数を増やしたほうがよい。
- ⑥ 実習後のレビューでは、発見した欠陥について、条約上の根拠についても考慮・列記させる方法を取ったほうがよい(時間の制約上、レビューに多くの時間を割けなかったためこのような事態が生じた)。

#### 4.3 ケーススタディーを通しての感想

- ① 全てのケーススタディーにおいて議論が活発であり、各国の判断基準がある程度統一された。
- ② 欠陥の根拠条文を念頭に置きながら判断する習慣をつけるのに役立つ手法であるので、今後も継続すべきである。
- ③ バリエティに富んだ教材を用意したのが参加者に好評であったのはよかった。

#### 4.4 全体を振り返って

各講師から、以下のコメントがあった。

- ① 参加者の積極的な参加を得たため、やり甲斐を感じた。
- ② 臨機応変な対応の必要性を感じ、現場で柔軟に対処するようにした。
- ③ 事務局の企画力とアレンジ、ホスト側(コーチン海運局)の運営は、賞賛に値するものだった。
- ④ 事務局を含めた講師陣のチームワークのよさが、今回の成功の原因である。
- ⑤ 2 週間は理想的な長さである。

#### 5. 研修主催者・コーディネーターとしての反省点

## 5.1 座学

研修生はすでに関連条約の知識は持ち合わせていたので、講師はより実践的な内容の講義に現場で変更した。事前に研修生の経験・レベルが把握できるのが好ましい。しかし、昨年の例を見ても研修生は開始直前に決まり、先方のレベル・希望に即した教材を用意するのは不可能に近い。今後の対策として、研修生を送る可能性のある国の PSC 官の資格を事前に調査し、関連規則の説明にどの程度の重点を置くかの判断基準としたらよいと思う。インドの例のように、PSC 官の資格が最低 2 年の船長または機関長経験者だと、より実践的な内容（ケーススタディ等を含む）に重点を置く講義の提供のほうが効果的である。

しかし、今回の研修では、関連条約に関する自己知識への過信が一部の研修生に見られたのも事実である。また講師からは、発見した欠陥を、関連規則と結びつけていないとの指摘もあった（前述 2.5 インド PSC の問題点②）。このような意味においても、また、過去に習得した知識を振り返る意味においても、条約の講義は必要不可欠である。

## 5.2 実船訓練及びレビュー

### ① 自国船籍船での実習の弊害

今回の研修では PSC 対象船が確保できず、2 日間で計 4 隻のインド船籍船にて模擬 PSC を行った。うち 3 隻が航行停止処分となった。航行停止処分となったチームの研修生達は、PSC で検査すべき箇所・項目・程度以上の細かい検査をせざるを得ず、結果的に旗国検査を行っていた。PSC の訓練として適する船ではなかったと言える。

外国船籍の船で PSC 実習を行うのが望ましいが、対象船の確保が毎回容易でないのも事実である。

今後、自国船籍船で模擬 PSC を行わざるを得ない場合は、開催国政府が協力依頼のしやすい船を選ぶ等の配慮が必要であろう。

PSC 対象船が確保できない場合は、欠陥個所の写真等を用いて、実際の PSC の手順に従った仮想 PSC(virtual PSC)行うのもひとつの方法である。

### ② 実習後のレビュー

発見した欠陥について条約上の根拠を列記するのが効果的との講師からの指摘を踏まえ、今後はレビューでは条約の根拠を考慮することとしたい。また、そのための十分な時間を確保できるように開催国と連携を図りたい。研修生のプレゼンテーションにおいても、条約上の根拠を含めるようにしたい。

### ③ リーダーの重要性

講師と一部の研修生（インド以外からの参加者）は、船上で数人が同時に船長及び機関長に質問するので、船長及び機関長に戸惑いが見られたとの指摘があった。各グループのリーダーはあらかじめ決めてあったが、船側との対応はリーダーのみがするというルールを事前に周知徹底おくべきであった。

### ④ PSC 手順の講義の必要性

当初、実習前日にチェックすべき証書や、FORM A 及び B の書き方など伝授する「PSC 手順」の講義を行う予定であった。しかし、予定になかったインド側のプレゼンテーション（前述 2.4 の「8 日目」の項目参照）が入ったため実行できなかった。この講義を実施すれば、効率的な実船訓練の実現に役立ったはずである。

### ⑤ 検査船舶の事前情報

コーチン海運局から翌日検査する船の要目情報の伝達が十分に行われなかったため、乗船してから船の要目を記入するのに時間を要した。インド人研修生によれば、普段は事前に域内情報システム（IOCIS）等でチェックするとのことであったが、今研修では、諸事情により実行されなかった。今後は開催国担当者に事前に念を押しておきたい。

## 5.3 その他

### インターネット接続

上記⑤の船舶情報の事前伝達の不備は、研修ホテルにインターネットに接続する環境が整っていなかったため、離れた場所にあるコーチン海運局（混雑時は車で約 1 時間）からの情報が行き渡らなかったことが主な原因と思われる。このような面からも、研修施設には、インターネットに接続する環境が整っていることが望ましい。今後はインターネットへの接続も必須事項のひとつとしたい。

## 6. 今後の展望

インド洋 MOU に対する第 2 回目の「出前研修」は、ほぼ予定通り終了した。インド洋 MOU の PSC 官が、この研修で得た知識及び経験を活かし、検査の質の向上が図られることを願っている。今回の研修では、チェックリスト等が無く非効率な PSC が行われていたことなどが判明し、改善すべき事項を指摘した。これらの指摘事項は研修生に周知したが、各国（特にインド）の海事局の PSC 担当部門に伝え、統一した手順の確立に役立ててもらおうべく、インド洋エムオウユウ事務局に送付した。これにより、インド洋 MOU マニュアルにあるチェックリスト使用の徹底が進み、統一した PSC 実施要領がマニュアルに準拠して作成されることを願う。今後、指摘した事項等が改善されれば、より効率的な PSC が可能になり、検査率の向上等に結びつくと考えている。

昨年のイランでの研修と同様、東京エムオウユウが培った研修のノウハウが、発展途上にある他地域 MOU 等の手助けになることを改めて実感した。今回の研修が好評を博し、成功裏に終わったのは、講師としてご協力いただいた、AMSA の Michel Hickman 氏、Tim Jordan 氏、チリの Roberto Gaete 氏、国土交通省の伏見 慎一氏のご尽力の賜物に他ならない。各講師に深く感謝を申し上げたい。同時に、今回の研修のホストであったインド海事局、実際の運営に携わったコーチン海運局及び共催者であるインド洋エムオウユウ事務局の全面的な協力があったからこそ、円滑に実現ができた。この場を借りて改めてお礼を申し上げたい。

## 7. その他

この研修は、インドの海運専用ウェブサイト Marine BizTV 上で紹介された。これは国内外の海運業界の最新ニュースを提供するインドでは定評のあるサイトである。掲載サイトの一部を別紙 6 に示す（但し現在動画・画像は掲載されていない）。



開講式 1 (2010 年 10 月 4 日)



M. P. John 海運局長による挨拶



Tim Jordan 講師代表挨拶

開講式 2 (2010 年 10 月 4 日)



事務局長挨拶代読



講師と研修生



研修生自己紹介



研修生自己紹介



講義風景 1



Tim Jordan 氏 (AMSA)



Michael Hickman 氏 (AMSA)

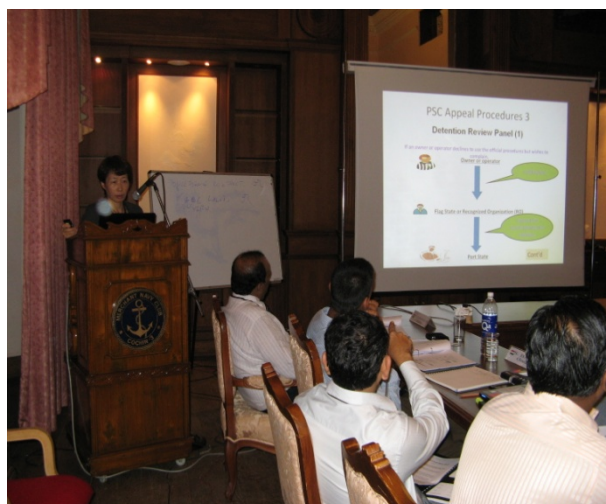
講義風景 2



伏見慎一氏 (国土交通省)



Roberto Gaete 氏 (チリ)



事務局



講義風景 3



研修生



Indian Ocean MOU 事務局長 Ganguli 氏

ケーススタディ





実船訓練 1



実船訓練



実船訓練



実船訓練

実船訓練 2



実習後の討論



実習後の討論



講師陣と事務局



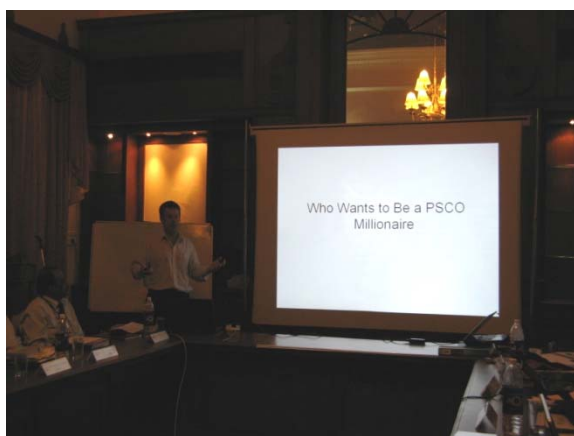
### 実船訓練 3



実習内容のプレゼンテーション



実習内容のプレゼンテーション



講師の講評

閉講式（2010年10月15日）



Gaete 氏（チリ）による講師代表挨拶



コーチン港湾局会長の祝辞



修了証書授与



講師陣と事務局

別紙1  
参加者リスト

1. インドからの参加者 (9名)

|    |                            |
|----|----------------------------|
| 1. | Mr. S. Barik               |
| 2. | Mr. Tambw ekar             |
| 3. | Mr. S.K. Das               |
| 4. | Capt. A.B. Solanki         |
| 5. | Capt. Santhosh S Darokar   |
| 6. | Mr. JVS Bharathi           |
| 7. | Capt S.I. Abdul Kalam Azad |
| 8. | Capt. Rakesh Johri         |
| 9. | Mr. Paul V.V.              |

2. インド以外からの参加者 (4名)

|    |                         |          |
|----|-------------------------|----------|
| 1. | Ms. Forgeard Geraldine  | 仏領レユニオン  |
| 2. | Mr. Azwimbavhi Mulaudzi | 南アフリカ共和国 |
| 3. | Mr. Amos M. Kuturi      | ケニア      |
| 4. | Mr. Wilfred J Kagimbi   | ケニア      |

## 別紙 2

## 時間割

| Day |                        | Activity and Subject  | Instructor  |  |
|-----|------------------------|---|---|--|
|     | Sat 2 Oct or Sun 3 Oct | Arrival of experts / trainees at Kochi  |   |  |
| 1   | Mon<br>4 Oct           | 09:30 – 11:30<br><b>(Opening Ceremony)</b><br><br>11:00 – 11:30<br>11:30 – 12:30<br>12:30 – 13:30<br>13:30 – 14:30<br>13:30 -- 17:00<br><br>19:30 – 22:00 | Welcome: Principal Officer, MMD, Kochi<br>Inauguration & Address by<br>Chief Guest: Chief Surveyor, GOI<br>Felicitation: Ms. Fumiko Akimoto<br>Felicitation: Mr. Tim Jordan<br>Introduction of Experts & Trainees<br>Presentation on Indian PSC activities<br>Coffee break<br>Briefing on Training schedule<br>Lunch<br>Topics of Tokyo MOU<br>Relevant Instrument Overview (SOLAS, MARPOL, LL and STCW Convention)<br>Welcome dinner hosted by Tokyo MOU Secretariat | India<br>India<br>Tokyo MOU<br>Australia<br><br>India<br><br>India<br><br>Tokyo MOU<br>Australia (TJ & MH) |
| 2   | Tue<br>5 Oct           | 09:00 – 12:30<br><br>12:30 – 13:30<br>13:30 – 17:00   | Relevant Instrument Overview (IMO Resolution A. 787(19)) & PSC Guidelines for SOLAS I<br>Lunch<br>PSC Guidelines for SOLAS III, IV and V  | Australia (MH)<br><br><br>Japan  |
| 3   | Wed<br>6 Oct           | 09:00 – 12:30<br>12:30 – 13:30<br>13:30 – 17:00   | PSC Guidelines for SOLAS II-1 and II-2<br>Lunch<br>PSC Guidelines for SOLAS IX & ISM Code   | Australia (MH)<br><br>Australia (TJ)   |
| 4   | Thu<br>7 Oct           | 09:00 – 12:30<br>12:30 – 13:30<br>13:30 – 17:00   | PSC Guidelines for SOLAS XI-2 & ISPS<br>Lunch<br>PSC Guidelines for LL and STCW   | Japan<br><br>Australia (TJ)  |
| 5   | Fri<br>8 Oct           | 09:00 – 12:30<br>12:30 – 13:30<br>13:30 – 17:00   | PSC – Indian perspective<br>Lunch<br>PSC Guidelines for MARPOL I & II   | India<br><br>Chile   |
| 6   | Sat<br>9 Oct           | 09:00 – 10:00<br><br>10:00 – 12:30<br>12:30 – 13:30<br>13:30 – 14:00<br>14:00 – 17:00   | PSC Procedure (appeal procedure and code of good practice)<br>PSC Guidelines for MARPOL III – VI<br>Lunch<br>PSC Guidelines for AFS<br>PSC Guidelines for Operational Requirements  | Tokyo MOU<br><br>Chile<br><br>Chile<br>Australia (MH)  |
| 7   | Sun<br>10 Oct          |   | Excursion to Allepy   |  |
| 8   | Mon<br>11 Oct          | 08:30 – 15:00<br>15:00 – 16:00<br>16:00 – 17:00   | 1 <sup>st</sup> Onboard Training<br>Lunch<br>Review and Discussion  |  |
| 9   | Tue<br>12 Oct          | 09:00 – 12:30<br><br>12:30 – 13:30<br>13:00 – 14:30<br>14:30 – 17:00  | Preparation of presentations<br>PPT presentation by trainees group<br>Tips and recommendations by instructors<br>Lunch<br>Detention reports<br>Case studies   | Australia (TJ)<br>Japan<br>Australia (MH)  |

|    |               |  |  |   |
|----|---------------|--|--|---|
| 10 | Wed<br>13 Oct |  | Excursion to waterfalls  |   |
| 11 | Thu<br>14 Oct | 08:30 – 13:30<br>13:30 – 14:30<br>14:30 – 17:00                  | 2nd Onboard Training<br>Lunch<br>Review and Discussion   |   |
| 12 | Fri<br>15 Oct | 09:00 – 09:40<br>09:40 – 10:30<br>10:30 – 11:00<br>11:00 – 11:30 | Oral presentation by trainees group<br>Case study<br>Usage of Code 99<br>Closing ceremony<br>Felicitation: Principal Officer, MMD, Kochi<br>Felicitation: Mr. Roberto Gaete<br>Guest: Chairman of Kochi Port Authority<br>Awarding certificate to the participants | Australia (MH)<br>Australia (MH)<br><br>India<br>Chile<br>India |

別紙 3  
講師陣の指摘事項

## 1. Positive Aspects

Trainers' team observed the PSC conducted by Indian PSCO and raised the following positive aspects:

- Good Introduction on scope and 'break the ice' with Master.
- Status check on last PSC inspection and deficiencies raised. (Remember that PSCOs can only clear deficiencies raised from an IOMOU member State in last 6 months and the Flag State/Class cannot clear PSC deficiencies.)
- Courteous with ships' crew and compliant with onboard requirements.
- Asked for items to be demonstrated by crew rather than doing themselves.
- Cross check of crew COC's against crew list.
- Check of SMC, DOC, ISSC manager details.
- For deficiency raised against oil record book incorrect entries, a good explanation was provided to Master/Chief Engineer.
- Whilst waiting for items to be tested – looking around at other areas.

## 2. Areas for Improvement

Trainers also gave some consideration on the way to improve PSC practices on the basis of what they observed by attending ship onboard inspection with the Indian PSCOs.

One of the most remarkable aspects where room for improvement was recognized is lack of consistency in PSC procedures among PSCOs. It is suggested that this can be achieved by making available to them a "checklist for inspection" for all the areas of the vessel to be visited.

The checklist is available in Section 5 "Inspection Folder" in the Indian Ocean MOU Manual, bearing it in mind that the Manual is currently being updated. The checklist consists of a list of standard certificates and documents; and a list of items to be checked by area of the vessel.

Each Authority should ensure the Manual be circulated to every PSCO in that Authority for him/her to conduct PSC according to the checklist.

The specific suggestions made by the instructors are sorted out as follows:

### **Prior to inspection**



PSCO should investigate the ship's history to be inspected through the use of IO MOU database.

### **Commencement of inspection**

PSCOs should use the check list at the commencement of inspection. They should also make it clear what is required to be an original document and what can be a copy. A list of essential items to be inspected will be presented to the Master at the beginning of the inspection. This document will ensure that the master/chief engineer are aware of what PSCOs will need and improve the time management of the inspection.

### **Attitude/Approach**

PSCOs should be encouraged to:

- more focus on technical inspection than document review.
- not to sift amongst the weeds. (it's either good or unsatisfactory).
- bear it in mind that inspections should be systematic.
- remember not to be acting as a Flag State or a Class.
- remove blinkers and not to have tunnel vision. For example, please associate the forward liferaft with lifejackets, ladder and immersion suits.
- apply the 'What If' approach

### **Treatment of Deficiencies**

PSCOs should be aware that

- timeframe for cleaning deficiencies raised is PSCO's call, not the crew's.
- some deficiencies require immediate corrective action.
- deficiencies should be related to the vessel type and the keel lay date.
- the deficiency raised can be linked to a convention reference.

### **Others**

- PSCOs should be reminded that all officers' COC's on ships carrying dangerous cargoes should be verified including tanker endorsement where required.
- The Authorities should provide PSCOs with standardized Personal Protective Equipment (PPE), e.g. hearing protection, safety glasses, mobile phones, cameras.
- PSCOs should confirm with the crew requirements in a quiet space such as the engine control room rather than shouting at the Chief Engineer in the engine room.

別紙 4  
実船訓練船リスト

1. 2010年10月11日(月)実習船舶

グループ1(同行者: Michael Hickman 氏(AMSA)及び秋元文子(事務局))

| Name               | IMO No. | Type       | GRT    | Flag  | Year of Build | Class        | Detention |
|--------------------|---------|------------|--------|-------|---------------|--------------|-----------|
| SANMAR<br>SERENADE | 9015357 | Oil Tanker | 25,877 | India | 1992          | IRS &<br>LRS | Yes       |

グループ2(同行者: Tim Jordan 氏(AMSA))

| Name              | IMO No. | Type                  | GRT    | Flag      | Year of Build | Class | Detention |
|-------------------|---------|-----------------------|--------|-----------|---------------|-------|-----------|
| ASEAN<br>EXPLORER | 9236676 | Steel Cable<br>Laying | 14,988 | Singapore | 2001          | LRS   | No        |

グループ3(同行者: Roberto Gaete 氏(チリ))

| Name               | IMO No. | Type                  | GRT    | Flag    | Year of Build | Class | Detention |
|--------------------|---------|-----------------------|--------|---------|---------------|-------|-----------|
| ALPINE<br>PERSEFON | 9379961 | Product Oil<br>Tanker | 41,696 | Liberia | 2008          | DNV   | No        |

グループ4(同行者: 伏見 慎一氏(国土交通省))

| Name               | IMO No. | Type         | GRT    | Flag                        | Year of Build | Class | Detention |
|--------------------|---------|--------------|--------|-----------------------------|---------------|-------|-----------|
| M.V. MARIA<br>N.M. | 8109113 | Bulk Carrier | 24,577 | St. Vincent &<br>Grenadines | 1982          | LRC   | Yes       |



2. 2010年10月14日(木)実習船舶

グループ1(同行者:伏見 慎一氏(国土交通省))

| Name            | IMO No. | Type       | GRT    | Flag  | Year of Build | Class | Detention |
|-----------------|---------|------------|--------|-------|---------------|-------|-----------|
| EAGLE<br>MEERUT | 9073737 | Oil Tanker | 20,372 | India | 1993          | IRS   | No        |

グループ2(同行者: Michael Hickman 氏(AMSA)及び秋元文子(事務局))

| Name               | IMO No. | Type                       | GRT   | Flag  | Year of Build | Class | Detention |
|--------------------|---------|----------------------------|-------|-------|---------------|-------|-----------|
| JINDAL<br>MEEAKSHI | 9528407 | Multi<br>Purpose<br>Vessel | 7,460 | India | 2008          | IRS   | Yes       |

グループ3(同行者: Tim Jordan 氏(AMSA))

| Name                     | IMO No. | Type          | GRT    | Flag  | Year of Build | Class        | Detention |
|--------------------------|---------|---------------|--------|-------|---------------|--------------|-----------|
| CHANDRABHAGA<br>PRATIBHA | 8026218 | Oil<br>Tanker | 22,127 | India | 1983          | IRS &<br>LRS | Yes       |

グループ4(同行者: Roberto Gaete 氏(チリ))

| Name      | IMO No. | Type              | GRT   | Flag   | Year of Build | Class | Detention |
|-----------|---------|-------------------|-------|--------|---------------|-------|-----------|
| OEL DUBAI | 9351804 | Container<br>ship | 9,990 | Panama | 2008          | ABS   | No        |

別紙 5  
研修生の総評

**Question: Please give your comments, or problems encountered, suggestions for improvement and new topics to be added, observations, use of resources and/or other views on the course in general.**

Participant 1

(new topics to be added)

- ILO
- Non-conventional ships

Participant 2

This was a well presented course with a lot of intuition and insight. The aspects that the course covered were just right and sufficient. I am sure I am now a better PSCO than when I arrived. Delegates participations was unruly and disorganized. The facilitators (experts) were really helpful, knowledgeable and experienced.

Participant 3

- It was a very good idea to have a party at the beginning of the training. This got the participants familiar with each other at the start rather than at the end.
- ISM code discussion should be given more time. This was the area that most PSCO did not apply during their inspections.
- Participants from more regions of the IOMOU will help in the spread of the required harmonization of inspections. Good luck in your inspections.

Participant 4

- Prior information on ships to be inspected should be made available.
- Instructors should point out deficiencies which may not be observed by PSCO while on board. It does not help to come afterwards to say there was a deficiency which was not identified by PSCO.

Participant 5

- More case studies can be developed and discussions on the practical experiences

of the experienced PSCO.

- One topic on ILO/MLC be considered to be included.

#### Participant 6

- Presence of an observer/presenter from IOMOU would have clarified doubts with respect to PSC conducted under IOMOU.
- Latest amendments should be included.
- Checklists (ship specific) could be given to participants.
- Lecturers, Instructors selected to deliver the presentations could be of origin from where maximum participants are participating, so that the topics can be understood properly.

#### Participant 7

Very effective, may be this type of course to be conducted in every 2 years interval.

#### Participant 8

- Before PSCO are put for this course, one should have at least 2 years PSCO experience or should have done basic PSCO course so that all participants can be at same level.
- Course contents needs to be revised.
- Indian PSC cell (DGS, Directorate General of Shipping) representative should have been with us throughout to give our administration standing about a particular degree, knowing our legal status, process faced and clearing our doubt.
- Thus should be a regular course every 5 years.
- Necessarily such interactive workshop on PSC should be organized by DGS once every year for discussion, updating of new regulations and problems faced.

#### Participant 9

- ILO (147) as real to be added.
- More case studies to be added.
- Inter regional expertise should share their actual experience and more time to be allotted to this.
- Inspection checklist specific to type of ship shall be developed and given to delegates for better improvement.

#### Participant 10

Even a small topic (should have been) expiated in better way.

#### Participant 11

- In general, training course was very useful and arrangements were excellent. Interaction between the participants was very informative.
- It is preferred that more such inter-regional training courses should be conducted, so that all other surveyors also get benefitted.
- MMD Kochi's efforts are commendable for making this course a huge success.

#### Participant 12

Very well organized, no problem encountered. Special praise for Sir M.P. John for active participation.

#### Participant 13

I consider this training was a rare opportunity to interact with PSCOs from various countries. This training session not only improve lots of information but it will help in harmonizing the PSC regime all over the world. All the experts could able to provide a lot of information to the trainees. I congratulate Tokyo MOU, IOMOU and DG Ship for organize this session and MMD (Mercantile Marine Department) Kochi has done an excellent job for the arrangement made to make this course an excellent one.

Marine BizTV 上の掲載ページ

Marine BizTV - Video Archive

 Login  Sign up



Inter-Regional Advanced Course of F

Search

Search Results

“ Inter-Regional Advanced Course of Port State Control ” 1 - 3 results of about 3



sex IWT is an exciting alternative for cargo transportation adamally METRI ICS Seminar ballast airblast GL Seminar chidambaram nawal Saigal home video Quarter Deck - Olav Eek Thorstensen Can remote sensing technology improve fish catch? Recession is a crest and fall of the wave - Gerry Tan, GK Log Darren Larkins 2nd Shipping Academic Conference welding Maritime Magazine - Part 3 Mobile Harbor and Anti-Roll Devices beach Marcap LLC abs chalmers Krishnakumar An Expert perspective on Maritime Issues alfa shiptek2009expo chakara Quarter Deck - Vijay G. Kalantri Interview with C. J. Mathew "The fight against the whale is just the beginning",

**Inter-Regional Advanced Course of Port State Control**

This is Inter Regional Advanced Course on Port State Control by Tokyo MOU and Indian Ocean MOU in association with DG Shipping, Government of India at Kochi, India on 4th – 15th October 2010. Program speech by Mr. Ajithkumar Sukumaran, Engineer and Ship Surveyor, Mercantile Marine Department, Kochi. Vote of thanks by Mr. V.V. Paul, Ship Surveyor-cum-Deputy Director General (Tech.), Mercantile Marine Department, Kochi

Duration: 00:23:45

More in: Seminar

[Telecast Info](#)

[Control](#) [Inter-Regional Seminar](#)

**Inter-Regional Advanced Course of Port State Control - Part 2**

This program presents InterRegional Advanced Course on Port State Control by Tokyo MOU and Indian Ocean MOU in association with DG Shipping, Government of India at Kochi, India on 4th – 15th October 2010. Welcome speech by Mr. M.P. John, Principal Officer, Mercantile Marine Department, Kochi. Talk presentation by Ms. Fumiko Akimoto, Tokyo MOU Secretariat and others.

Duration: 00:26:55

More in: Seminar

[Telecast Info](#)

[Control](#) [Inter-Regional Seminar](#)

Marine BizTV - Video Archive

GREENPEACE DUESTSCHLAND

goltens corporate video Griffin Kinetic

21st Anniversary Celebration part 2

**princess** schukking pollution

Across the 7 Seas - Part 1 Our Ancestors

are from Africa? Fourth Dimension -

Germanischer Lloyd Quarter Deck -

Philip Wake monaco Quarter Deck -

Aftab Hasan An outstanding display

from the maritime world at APM 2010

Indian River Sea Vessels The Body and

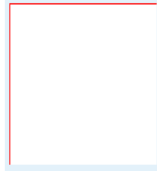
The Mind (YOGA) - Part 23 download

video Know the experts' view on your

favourite sport – Diving cift pumps

Quarter Deck - Capt. A. K. Rathee

### Inter-Regional Advanced Course of Port State Control - Part 1



This program presents InterRegional Advanced Course on Port State Control by Tokyo MOU and Indian Ocean MOU in association with DG Shipping, Government of India at Kochi, India on 4th – 15th October 2010. Welcome speech by Mr. M.P. John, Principal Officer, Mercantile Marine Department, Kochi. Talk presentation by Ms. Fumiko Akimoto, Tokyo MOU Secretariat and others.

Tags : [Inter-Regional Advanced Course of Port State](#)

[Control](#) [Inter-Regional Seminar](#) [M.P.John](#)

Duration: [00:24:55](#)

More in: [Seminar](#)

[Telecast Info](#)

MarineBizTV

## 添付 2

### ケニアでの研修報告書

1. Period of time

31 January to 11 February 2011

2. Instructors

- Mr. David Ferguson, Marine Surveyor, Maritime Operations – East, Maritime Operations Division, Australian Maritime Safety Authority (AMSA)
- Mrs. Jennifer Tumbers, Marine Surveyor, Maritime Operations – West, Maritime Operations Division, AMSA
- Mr. Hisashi Terada, Principal PSC officer, Tohoku District Transport Bureau, Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Japan
- Mr. Joeng Choer Lag, PSC officer, Seafarers, Maritime Affairs & Safety Division, Incheon Regional Maritime Affairs & Port Office, Ministry of Land, Transport and Maritime Affairs, Republic of Korea

3. Coordinators

Mr. Ning Zheng, Technical Officer, Tokyo MOU Secretariat and Mr. Wilfred J Kagimbi, Chief Surveyor & Receiver of Wreck, Kenya Maritime Authority

4. Participants

The total number of participants is sixteen (16). By the good efforts by the Indian Ocean MOU, IMO provided sponsorship to two participants from the Authorities of the Indian Ocean MOU and also to six participants each from the Black Sea MOU, the Viña del Mar Agreement, the Caribbean MOU, the Mediterranean MOU, the Abuja MOU and the Riyadh MOU. A list of participants is in **Annex 1**.

5. Timetable

The timetable is reproduced in **Annex 2**.

6. Opening Ceremony

6.1 The opening ceremony of the training course was conducted by the Kenya Maritime Authority. After introduction of the guests of honour: Mr. Joseph Nguru, Chairman of Kenya Maritime Authority and Mr. Francis Gichiri Ndua, Managing Director of Kenya Ports Authority, participants

and instructors were invited to introduce themselves.

6.2 A welcome speech was made by Mr. Francis Gichiri Ndua, Managing Director of Kenya Ports Authority. Then, Mr. David Ferguson of Australia, on behalf of the instructors and participants, made an address. Mr. Joseph Nguru, Chairman of Kenya Maritime Authority, gave his remarks and declared opening of the course.

## 7. Classroom lectures

### Day 1 (Mon. 31 January 2011)

7.1 Mr. Wilfred J Kagimbi, Chief Surveyor & Receiver of Wreck, Kenya Maritime Authority, made a presentation on Kenya's Perspective on PSC. After that, Mr. Ning Zheng, Technical Officer, Tokyo MOU Secretariat, introduced Tokyo MOU activities and PSC data.

7.2 Mr. David Ferguson (AMSA) made general introduction on SOLAS, MARPOL, Load Lines and STCW Conventions and, PSC Procedures (Resolution A. 787(19)).

### Day 2 (Tue. 1 February 2011)

7.3 Mr. David Ferguson (AMSA) gave lectures on the following topics:

- SOLAS Chapter I
- SOLAS Chapter II-1
- SOLAS Chapter II-2
- Operational Requirements
- Animation/Video on lifeboat drop accident and lifeboat hook setting

7.4 Mr. Hisashi Terada, Principal PSC officer, Tohoku District Transport Bureau, Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Japan, made presentations on

- SOLAS Chapter III
- SOLAS Chapter IV
- SOLAS Chapter V

### Day 3 (Wed. 2 February 2011)

7.5 Mrs. Jennifer Tumbers, Marine Surveyor, Maritime Operations – West, Maritime Operations Division, AMSA, delivered presentations on:



- SOLAS Chapter IX and ISM Code
- Introduction of MLC 2006
- Fitness for Duty (Rest hours)
- Load Lines
- STCW

7.6 Mr. David Ferguson (AMSA) explained to the participants on how to use action code 99 correctly and how to make good use of digital camera to take evidence and tricking of deficiencies during PSC inspections.

Day 4 (Thu. 3 February 2011)

7.7 Mr. Hisashi Terada (Japan) provided lectures on SOLAS Chapter XI and the ISPS Code.

7.8 Mr. David Ferguson (AMSA) gave explanations on the relevant requirements in SOLAS Chapter VI and the issue on cargo securing.

7.9 Mr. Joeng Choer Lag, PSC officer, Seafarers, Maritime Affairs & Safety Division, Incheon Regional Maritime Affairs & Port Office, Ministry of Land, Transport and Maritime Affairs, Republic of Korea, made a lecture on MARPOL Annex I.

Day 5 (Fri. 4 February 2011)

7.10 Mr. Jeong Choer Lag (Korea) gave presentations on:

- MARPOL Annex II
- MARPOL Annex III
- MARPOL Annex IV
- MARPOL Annex V
- MARPOL Annex VI
- AFS

7.11 Mr. David Ferguson and Mrs. Jennifer Tumbers of AMSA conducted a session during which photos were shown and participants were asked to judge whether it is a deficiency and what action should be taken.

Day 8 (Mon. 7 February 2011)

7.12 Mr. Hisashi Terada (Japan) explained to the participants PSC Procedures concerning selecting

target ships, inspection procedures and reporting.

7.13 Mr. Ning Zheng of the Tokyo MOU Secretariat made presentation on appeal procedure, qualifications of PSCO and Code of Good Practice for PSCOs. In addition, he showed the video “Port State Control – Tightening The Net”.

#### Visiting by the Indian Ocean MOU Secretary

7.14 Mr. Bimalesh Ganguli, Secretary of the Indian Ocean MOU, visited Mombasa on 4 – 8 February 2011. During his visit, Mr. Ganguli thanked instructors for their good lectures and encouraged all participants to take advantage of the training opportunity and to actively participate in discussions, case studies and onboard trainings.

#### 8. Case studies

Due to time constraint, only one case study session was carried out. The case study was conducted by Mr. David Ferguson and Mrs. Jennifer Tumbers of AMSA. During the case study, each of the participants was asked to make judgement on deficiencies and the action to be taken thereon based on pictures displayed. Through the case study, participants learnt how to identify deficiencies and what action to be appropriate. Most of participants expressed their wish to have more time for case studies.

#### 9. Onboard training

9.1 Two onboard trainings were conducted on day 9 and 10 respectively. Four ships were used per day totaling 8 ships for two days. A list of ships used for the training is in **Annex 3**. The participants were divided into four groups as the number of instructors allowed. Three groups were led by PSC officers/inspectors from the Kenya Maritime Authority and one group was led by a captain from the Kenya Ports Authority, who was authorized by KMA.

9.2 After completion of the onboard trainings, each group was given time to prepare and make presentation on results of onboard trainings/inspections. Discussions and clarifications on deficiencies were generated at the plenary.

9.3 Both the participants and instructors were of the opinion that onboard trainings were very effective and practical. They also expressed that, if possible, more onboard trainings would be preferred.

#### 10. Closing Ceremony

10.1 Mrs. Nancy Karigithu, Director General of Kenya Maritime Authority, attended the closing ceremony as the guest of honour.

10.2 Mr. Hisashi Terada, on behalf of the instructors, made the closing remarks. After that, Mr. David Ferguson gave a short speech. A closing address was made by Mrs. Nancy Karigithu. Then, training certificates were awarded to participants.

10.3 Finally, Mr. Stephen Thomas, on behalf of the participants, expressed thanks to the organizers of the training course (i.e. Tokyo MOU, India Ocean MOU, Kenya Maritime Authority and IMO) and to the instructors. Mr. Wilfred J Kagimbi gave some words on behalf of the host Authority at the end of the closing ceremony.

#### 11. Feedback of the participants

All participants appreciated the opportunity of the training and confirmed that the training was very useful and effective. The feedback of the participants is in **Annex 4**.

#### 12. Feedback of the instructors

The instructors expressed their satisfaction with the training. Their feedback is in **Annex 5**.

#### 13. Overall impression

13.1 The training was well conducted. There were good interactions between the instructors and participants during presentations. Discussions on practical deficiencies/cases and onboard trainings were very effective and productive.

13.2 It was observed that the following improvements were made based on the previous trainings:

- the IO-MOU PSC Manual was made available for each participant
- a standard letter of notice to masters on PSC inspection was prepared by the host Authority, which includes list of documents to be prepared for checking, areas to be inspected and attentions for life boat drill
- Internet connection was provided at both the class room and accommodations

13.3 The main objective of the training is to develop and improve PSC officers' professionalism which includes understanding and applying convention regulations appropriately, identifying deficiencies objectively and correctly and taking appropriate and reasonable actions. In this context, the attentions may be paid to the following areas when preparing training in future:

- to explain as far as possible regulations/requirements from practical point of view (i.e. where to look, how to check, typical/common deficiencies, cases, etc.)
- to allocate at least one day for case study
- if situation permit, to carry out one more onboard training.

\* \* \*

## Opening Ceremony





Opening



Speech by Managing Director of KPA



Speech by the representative of instructors  
(Mr. David Ferguson)



Speech by the Chairman of KMA



Instructors



Participants



Classroom lectures



Mr. David Ferguson (AMSA)





Mr. Hisashi Terada (Japan)



Mrs. Jennifer Tumbers (AMSA)





Mr. Joeng Choer Lag (Republic of Korea)



TMS



Participants



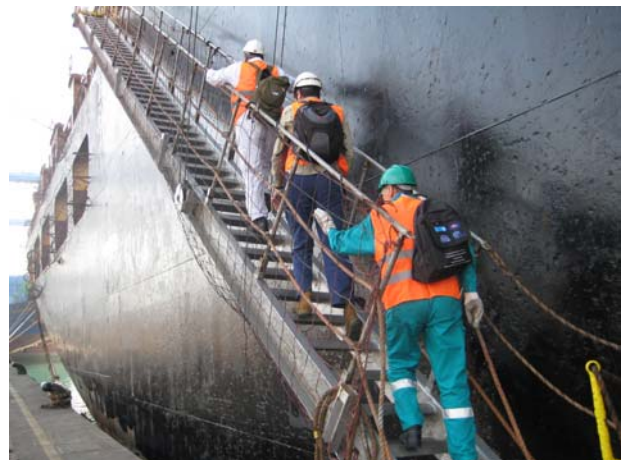
IO-MOU Secretary at classroom





Instructors at classroom

### OBT









Onboard trainings







Visit to KMA Office





OBT review and presentations



## Closing ceremony



Speech by Mr. Hisashi Terada (Japan)



Speech by Mr. David Ferguson (AMSA)



Speech by Mrs. Nancy Karigithu of KMA



Participants





Awarding certificates



Speech by representative of participant



Speech by representative of the host Authority

## Annex 1

List of participants in Inter-Regional Advanced Course of Port State Control in Mombasa, Kenya, from 31<sup>st</sup> January to 11<sup>th</sup> February 2011

| No  | Name                           | Country      |
|-----|--------------------------------|--------------|
| 1.  | Mr. Selestine Michael Mkenda   | Tanzania*    |
| 2.  | Mr. Hashim Idris Alinour       | Sudan*       |
| 3.  | Mr. Alalawi Mubarak Rashid     | Oman*        |
| 4.  | Mr. Stephen Thomas             | Guyana*      |
| 5.  | Mr. Memis Ekrem                | Turkey*      |
| 6.  | Mr. Rodolfo Alberto Lorenzo    | Argentina*   |
| 7.  | Mr. Derouiche Fredj            | Tunisia*     |
| 8.  | Mr. Dominic Ikechi Alim        | Nigeria*     |
| 9.  | Mr. Ronald Williams            | South Africa |
| 10. | Mr. Mladen Brkovoc             | South Africa |
| 11. | Mr. Amos Mwamburi Kituri       | Kenya        |
| 12. | Mr. Wilfred J Kagimbi          | Kenya        |
| 13. | Mr. Frederick Ouma Wahutu      | Kenya        |
| 14. | Mr. Rashid K. Salim            | Kenya        |
| 15. | Mr. Sadi Alfred Munga          | Kenya        |
| 16. | Capt. Marco Constantine Kasuga | Tanzania     |

\* Sponsored by IMO.

\* \* \*

**Annex 2**

**Time Table of  
Inter-Regional Advanced Course on Port State Control  
Tokyo & Indian Ocean MOUs, Kenya Maritime Authority and IMO  
At Mombasa, Kenya  
31<sup>th</sup> January – 11<sup>th</sup> February 2011**

| Day                      |               | Activity and Subject  | Instructor                  |
|--------------------------|---------------|---|-----------------------------|
| Sat 29 Jan or Sun 30 Jan |               | Arrival of experts / trainees at Mombasa  |                             |
| 1                        | Mon<br>31 Jan | 09:30 – 10:30<br><b>(Opening Ceremony)</b>  | Kenya<br>Australia<br>Kenya |
|                          |               | 10:30 – 11:00   |                             |
|                          |               | 11:00 – 12:00   | Kenya<br>Tokyo MOU          |
|                          |               | 12:00 – 13:30   |                             |
|                          |               | 13:30 – 17:00   | Australia (DF)              |
|                          | 19:00 – 22:00 | Welcome dinner hosted by Tokyo MOU Secretariat at Serena Beach Hotel & Spa        |                             |
| 2                        | Tue<br>1 Feb  | 08:30 – 12:30   | Australia (DF)              |
|                          |               | 12:30 – 13:30   |                             |
|                          |               | 13:30 – 17:00   | Japan                       |
| 3                        | Wed<br>2 Feb  | 08:30 – 12:30   | Australia (JT)              |
|                          |               |   |                             |
|                          |               |   | Australia (DF)              |
|                          |               | 12:30 – 13:30   |                             |
|                          | 13:30 – 19:00 | Visit to AKAMBA Handcraft Workshop & Mombasa City Tour                            |                             |
| 4                        | Thu<br>3 Feb  | 08:30 – 12:30   | Japan                       |
|                          |               | 12:30 – 13:30   |                             |
|                          |               | 13:30 – 17:00   | Korea                       |
| 5                        | Fri<br>4 Feb  | 08:30 – 12:30   | Korea<br>Australia          |
|                          |               | 12:30 – 13:30   |                             |
|                          |               | 13:30 – 17:00   |                             |
| 6                        | Sat<br>5 Feb  | Tour of TSAVO East National Park  |                             |
| 7                        | Sun<br>6 Feb  | Visit to FORT JESUS and HALLER Park<br>Dinner sponsored by the IO-MOU Secretariat |                             |
| 8                        | Mon<br>7 Feb  | 08:30 – 12:30   | Japan<br>Tokyo MOU          |
|                          |               |   |                             |

| Day |               | Activity and Subject                            | Instructor   |
|-----|---------------|---|--|
|     |               | 12:30 – 13:30<br>13:30 – 17:00<br>19:00 – 22:00 | Australia<br>Australia   |
| 9   | Tue<br>8 Feb  | 07:30 – 17:00                                   | 1 <sup>st</sup> Onboard Training   |
| 10  | Wed<br>9 Feb  | 06:30 – 15:00<br>15:00 – 15:30<br>15:30 – 16:30 | 2 <sup>nd</sup> Onboard Training<br>Visit to Mombasa Search & Rescue<br>Co-ordinating Center<br>Courtesy Visit to Kenya Maritime Authority   |
| 11  | Thu<br>10 Feb | 08:30 – 12:30<br>12:30 – 13:30<br>13:30 – 16:00 | Preparation of presentations<br>Oral presentation by trainees groups<br>Lunch<br>Oral presentation by trainees groups (cont.)<br>Dinner at TAMARIND DHOW   |
| 12  | Fri<br>11 Feb | 09:00 – 10:30<br>10:30 – 11:00<br>11:00 – 12:00 | Review and Discussion on the Training<br>Coffee break<br>Closing ceremony<br>Closing Remarks: Mr. Hisashi Terada<br>Felicitations: Mr. David Ferguson<br>Speech: Mrs. Nancy Karigithu, Director-General<br>of Kenya Maritime Authority<br>Awarding certificate to the participants |

\* \* \*

### Annex 3

#### List of ships used for PSC onboard training

1. Ships inspected on 8 February 2011

Group 1 (Accompanied by Mr. David Ferguson and Ning Zheng)

| Name    | IMO No. | Type          | GRT    | Flag  | Year of Build | Class     | Detention |
|---------|---------|---------------|--------|-------|---------------|-----------|-----------|
| SOTIRIA | 7718242 | General Cargo | 13,677 | Malta | 1977          | ABS & PRS | Yes       |

Group 2 (Accompanied by Mrs. Jennifer Tumbers)

| Name      | IMO No. | Type         | GRT    | Flag  | Year of Build | Class | Detention |
|-----------|---------|--------------|--------|-------|---------------|-------|-----------|
| PALAEEMON | 8311091 | Bulk Carrier | 17,796 | Malta | 1984          | LR    | Yes       |

Group 3 (Accompanied by Mr. Hisashi Terada)

| Name          | IMO No. | Type      | GRT    | Flag   | Year of Build | Class | Detention |
|---------------|---------|-----------|--------|--------|---------------|-------|-----------|
| CONTI EXPRESS | 8009466 | Container | 17,465 | Cyprus | 1981          | NK    | No        |

Group 4 (Accompanied by Mr. Jeong Choer Lag)

| Name | IMO No. | Type         | GRT    | Flag   | Year of Build | Class | Detention |
|------|---------|--------------|--------|--------|---------------|-------|-----------|
| HAY  | 8300652 | Bulk Carrier | 23,643 | Turkey | 1985          | LR    | No        |

2. Ships used on 9 February 2011

1. Ships inspected on 8 February 2011

Group 1 (Accompanied by Mr. David Ferguson and Ning Zheng)

| <b>Name</b> | <b>IMO No.</b> | <b>Type</b> | <b>GRT</b> | <b>Flag</b> | <b>Year of Build</b> | <b>Class</b> | <b>Detention</b> |
|-------------|----------------|-------------|------------|-------------|----------------------|--------------|------------------|
| MSC AYALA   | 8413033        | Container   | 36,124     | Panama      | 1995                 | NK           | Yes              |

Group 2 (Accompanied by Mrs. Jennifer Tumbers)

| <b>Name</b>       | <b>IMO No.</b> | <b>Type</b> | <b>GRT</b> | <b>Flag</b> | <b>Year of Build</b> | <b>Class</b> | <b>Detention</b> |
|-------------------|----------------|-------------|------------|-------------|----------------------|--------------|------------------|
| E. R.<br>ELSFLETH | 9246346        | Container   | 27,322     | Liberia     | 2003                 | GL           | No               |

Group 3 (Accompanied by Mr. Hisashi Terada)

| <b>Name</b>    | <b>IMO No.</b> | <b>Type</b> | <b>GRT</b> | <b>Flag</b> | <b>Year of Build</b> | <b>Class</b> | <b>Detention</b> |
|----------------|----------------|-------------|------------|-------------|----------------------|--------------|------------------|
| WEHR<br>RISSEN | 9204489        | Container   | 16,802     | Germany     | 1999                 | GL           | No               |

Group 4 (Accompanied by Mr. Jeong Choer Lag)

| <b>Name</b> | <b>IMO No.</b> | <b>Type</b> | <b>GRT</b> | <b>Flag</b>         | <b>Year of Build</b> | <b>Class</b> | <b>Detention</b> |
|-------------|----------------|-------------|------------|---------------------|----------------------|--------------|------------------|
| ARAMON      | 9440485        | Tanker      | 42,225     | Marshall<br>Islands | 2010                 | ABS          | No               |

\* \* \*

## Annex 4

### Comments by Participants in Internal-Regional Advanced Course on PSC in Mombasa, Kenya

**Q1.1 Please give any other observation you may have had on the performance of the lecturers.**

#### Participant 3

The lecturers are very knowledgeable and experienced.

#### Participant 5

I think it was successful the topics chosen for their high content of information and further development in the classes.

#### Participant 6

The English language for some lecture was not easy to understand for some people (one lecture was going too fast).

#### Participant 7

A couple of the lecturers have difficulty with the use of English language. This affected their effectiveness in answering questions.

#### Participant 8

Presentations were done very well.

#### Participant 9

During presentation (on some subjects) the lecturers have to be opened to the listeners.

#### Participant 10

- 1) Will require to have all lecturers fluent in English.
- 2) The pace of the lecturers sometimes too fast for a good follow up and assemble the points to be discussed further.

#### Participant 12

The delivery was generally good and live use of teaching aids was well optimized. Pictorial depiction of deficiencies also went a long way in creative lasting images to participants.

Participant 13

Presentation was excellent from all the presenters even though English is not our mother tongue.

Participant 14

The ability to communicate in English to some of the experts should be considered prior assignments.

\* \* \*



## Annex 5

### **Instructors' Evaluation of Inter-Regional Advanced Course on Port State Control in Mombasa, Kenya 31 January – 11 February 2011**

**I. As instructors, please give your comments regarding course participants' level, comprehension and attitude in the following sessions:**

#### **1. Classroom lectures**

##### Instructor 1

By the end of the two weeks, the participants seemed to have grasped the materials presented.

##### Instructor 2

Went well appeared to get message across to participants. I saw what we taught being used in onboard training. More training not on rules but putting in place regulations as part of PSC.

##### Instructor 3

Most of participants were understanding convention regulations and taking point in discussion of regulations passionately. Their levels were also quite high.

##### Instructor 4

Good.

#### **2 Onboard training**

##### Instructor 1

A very important part of the exercise. Perhaps another inspection would be of value.

##### Instructor 2

An excellent training tool. Which my groups benefited greatly from. More days training on board so as all groups get to see all instructors would be helpful for participants.

Instructor 3

It seemed that some participants didn't have many experience of PSC inspection, but they were very energetic carrying out inspection.

Instructor 4

Good.

**3. Case studies**

Instructor 1

This prompted much heavy discussion. Excellent!

Instructor 2

Deficiencies presentation was really well received by delegates. It gave a practical insight into putting rules into play.

Instructor 4

Good.

**II. As instructors, please give any other feedback (new topics to be added, teaching method/material to be adopted in future, views on the course in general, etc)**

Instructor 1

Reducing the amount of time going through the regulations in details more time showing what we are looking for to enforce these rules. More onboard training.

Instructor 2

More onboard training, so all groups can go with each instructor to give a better over view.

Instructor 3

I suggest that Tokyo MOU make instructor pool for training course also prepare training materials. I think it is more effective and practical to use same materials by designated instructor for training of PSC inspectors.